



オアシス21

No. 110

令和7(2025)年
12月

福祉にいがた 第880号(8~12面)

CONTENTS

卷頭特集

ねんりん。ヒック岐阜 県選手団が奮闘

(2・3面)

・シニアカレッジ卒業式

・新潟市で福祉・介護・健康フェア



絵
「サンタクロース」
作・新井
里沙(加茂市)
〈作者一言〉家にあつたクリスマス飾りなどを見て描いたサンタ

岐阜の山並みを背に勢ぞろいした選手たち。中央に新潟県と
新潟市の旗が見える



清流に輝け ひろがれ 長寿の輪



交流の輪 温かく



開会式でリラックスした表情を見せる新潟県選手団

総合開会式は18日、岐阜市の岐阜メモリアルセンター長良川競技場で、約1万3千人が参加して行われました。

曇り空に時々小雨が交じるあいにくの天気でした

マラソン5キロ70歳以上

が、新潟県選手団は堂々の入場行進。本番の競技では、好成績が相次ぎました。

男子で斎藤正幸さん(70)

「村上市」が3位入賞。バ

ウンドテニスでも、県ねん

りん選抜チーム「トキ☆めき越後」が3位に入りました。

ソフトバレーボールでは「たかだかざまき」(柏崎市)

がAブロック優勝。ゴルフ個人(65~69歳)では土屋博さんが2位でした。

競技ごとに表彰する「高齢者賞」は、新潟県勢ではゲートボールに出場した「GBF」の福原太作さん(89)と福原マツさん(90)。いずれも津南町に贈られました。

次回、2026年のねんりんピックは埼玉県で開催される予定です。

新潟県選手団100人躍動

相次ぐ好成績、あふれる笑顔

スポーツや文化活動を通じて、高齢者が健康で豊かに暮らせる社会づくりを目指す第37回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2025)が10月18日~21日、岐阜県内で開かれました。新潟県選手団は、14競技に約100人が出場。「清流に輝け ひろがれ 長寿の輪」のテーマの下、熱い戦いを繰り広げ、全国の仲間たちと交流の輪を広げました。



プロック
1位 ソフトバレーの「たかだかざまき」チーム



3位 マラソン5キロ 70歳以上男子の斎藤正幸さん

奮闘!! 県勢



3位 バウンドテニスの「トキ☆めき越後」チーム



個人
2位 ゴルフの土屋博さん(写真右)

熱い戦い
力強く

ねんりんピック岐阜2025 新潟県選手団の記録

10月18~21日

種目	チーム	成績
卓球	新潟県	第一次予選リーグ戦 1勝1敗(2位) 第二次予選リーグ戦(2位グループ) 0勝2敗
テニス	朱鷺&コシヒカリ	予選リーグ戦 3勝0敗(1位) 予選1位グループ決勝トーナメント出場 ベスト16
ソフトテニス	新潟県	予選リーグ戦 1勝2敗(3位) 予選3位グループ決勝トーナメント出場
ソフトボール	新発田SBC	交流大会トーナメント戦1回戦 新潟県 0-14 愛知県
ゲートボール	GBF(津南町) 小戸クラブ(新発田市)	予選リーグ戦 2勝2敗 予選リーグ戦 0勝3敗
ゴルフ		【団体】 43位/56チーム 【個人】 大屋 雄二 (60~64歳) 32位/43人 土屋 博 (65~69歳) 2位/47人 古城 勝彦 (70歳以上) 79位/82人
マラソン		斎藤 正幸(男子70歳以上5キロ) 3位 佐藤 義弘(男子70歳未満10キロ) 23位
弓道	新潟県	予選一回戦 9中/20射 二次予選 5中/20射 計14中

種目	チーム	成績
剣道	新潟県	予選リーグ戦 2勝0敗(第3ブロック1位) 決勝トーナメント出場 ベスト16
グラウンドゴルフ	糸魚川チーム(糸魚川市)	男子の部 ▷ 50位 室橋 喜一 女子の部 ▷ 12位 五十嵐 カヨ子 ▷ 16位 下杉 みどり ▷ 75位 猪又 好 ▷ 115位 大久保 清子 ▷ 145位 西澤 昭子
ソフトバレーボール	たかだかざまき(柏崎市)	予選リーグ戦 2勝0敗(1位) 順位別リーグ戦第1位グループ(Aブロック) 2勝0敗【優勝】
太極拳	チームさんわ(上越市)	20位/53チーム
ダンススポーツ	新潟県	【団体戦】 2次予選出場 【個人戦】 準決勝出場 信田組(フルツ・タンゴ) 3次予選出場 品田組(チャチャチャ) 2次予選出場 横山組(フルツ・タンゴ) 品田組(ルンバ) リダンス 関根組(フルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャチャ)
バウンドテニス	トキ☆めき越後	予選リーグ 2勝0敗(1位) 決勝トーナメント 1勝1敗【3位】

シニアの生きがいづくりや社会参加を目指す「シニアカレッジ新潟」が令和7年度のカリキュラムを終え、新潟、長岡、上越の3会場で最終の特別講義と卒業式が行われました。3会場合わせて133人が卒業生が一人ずつ修了証書を受け、晴れやかな表情を見せていました。

令和7年度卒業式



新潟 萩原明弘学長から一人ずつ証書を受ける卒業生たち 10月28日

学んだ知識は地域の力



長岡 卒業式で記念写真に収まる卒業生たち=10月30日



上越 萩原明弘学長の特別講義に耳を傾ける卒業生たち=10月31日

卒業生133人晴れやか

萩原学長式辞

今回の卒業生は、新潟が

91人、長岡が24人、上越が

18人。令和6年度に入学し、

2年間にわたりてさまざま

な分野の講義を受けまし

た。特別講義と卒業式は、

新潟会場が10月28日に新潟

ユニゾンプラザ、長岡会場

が同30日にアトリウム長

岡、上越会場が同31日に

アートホテル上越で行われ

ました。

新潟会場では、卒業式に

先立ち、萩原明弘学長（新

潟大学大学院医歯学総合研

究科教授）が「地域で楽し

さを見つけよう」と題して

特別講義を行いました。講

義の要旨は5面に掲載。

卒業式では、卒業生が一

人ずつ登壇して、萩原学長

から修了証書を受けまし

た。緊張した様子も見られ

ましたが、どの顔にも2年

間学び通した安堵と喜びの

表情が浮かんでいました。

修了証書授与の後、萩原

学長は「学び続ける力は人

生を豊かにし、地域を活性

化させる。今日の卒業は地

域の出発点。皆さん地域

と共に歩んでくれることを

期待しています」と式辞を

述べました。

卒業式を終えた後は、それぞれ談笑したり記念撮影したり、和やかな時間を過ごしていました。

卒業生の一人、牧野美佐子さん（73）は「いろいろ新しいことを学べて、地域に生かせそうなことがたくさんありました。仲間づくりもできて本当に楽しかったです」と笑顔で話していました。

難聴と軽度の認知症があり、理解が難しいこともあったが、皆さんの温かい支援で楽しく受講することができた。いただいた資料を今後の暮らしに役立てたい。

その分野の専門家の方々が時間を割いて教壇に立ってくださった。この年齢になつてこんなに素晴らしい機会があるなんて。受講して本当によかったです。

受講者の声（アンケートから抜粋）

防災士養成について学んで、資格取得に向けて頑張っている。地域の防災コミュニティー形成に積極的に参加し、防災・減災に対応していきたい。

非常に充実した講義内容で、新たに得た知識も多かった。ここで得た知識を生活に役立てたい。受講生同士の交流をもっと深められたらなおよかったです。

仲良くしていただいたグループの皆さんとは今後も交流が続きそうでうれしい。欲を言えば、新潟の文化・芸術に関する講義や野外学習があつてもよかったです。

定年退職後、外部との接点が薄れがちな生活の中で、講義に出かけるのは生活のメリハリと楽しみになった。できれば継続していろいろな知識を吸収したい。

シニアカレッジ新潟の葭原明弘学長は、新潟、長岡、上越の3会場で、卒業式の前に「地域で楽しさを見つけよう」と題して特別講義を行いました。新潟会場での講義要旨は次の通り。

地域おこしで業者の手による大きなイベントが開かれることがあるが、單発で終わらせてしまつては意味がない。地域の人気が細かいところまでずっと関わり続けて「文化」に育てることが大切だ。

地域づくりがうまく行くかどうかは、それのが「わがこと化」できるかどうかにかかっている。行政は高いところからではなく、住民や企業と一緒に知恵を出し合つてほしい。

一般的に、行政は新しいアイデアを出すのは苦手だが、継続するのは得意なこと。地域づくりには専門的な技術や方針論よりもコミュニケーションが大事だ。いろいろな場に参加して「わがこと化」を広めよう。気になつただれかが声を上げ、それを組織につなぐ中間的存在も必要。皆さんが現役時代に培つたものを次世代に引き継いでもらいたい。

「わがこと化」が地域づくりの鍵



葭原明弘学長 特別講義

特別講義を行う葭原明弘学長

は意味がない。地域の人気が細かいところまでずっと

関わり続けて「文化」に育てることが大切だ。

地域づくりには専門的な技術や方針論よりもコミュニケーションが大事だ。いろいろな場に参加して「わがこと化」を広めよう。気になつただれかが声を上げ、それを組織につなぐ中間的存在も必要。皆さんが現役時代に培つたものを次世代に引き継いでもらいたい。

新潟県福祉人材センターを利用してみませんか



福祉人材センター
ホームページ

相談無料
お問い合わせ



福祉の仕事専門の
無料職業紹介を行っています！

新潟県福祉人材センター

TEL. 025-281-5523
9:00~17:00 (土・日・祝日・年末・年始は除く)

妙高市で子ども食堂などを運営している「NPO法人あいあう」活動費をまかなうため、週1回のレストラン運営も始めています。



NPO法人あいあう

2017年、妙高市の願生寺で子ども食堂「あいあう食堂」をオープン。フードシェアリング、学用品などのリユースにも取り組み、22年にNPO法人設立。22年に旧斐太南保育園に拠点を移し、ボランティア約70人。



「住職のいないお寺を引き継ぐことになったから、一緒にやらないか…」。それが元力で、今のが夫からの復縁プロポーズで、2011年に妙高市へ嫁いできました。建物はあちこち壊れて汚れ、掃除に明け暮れる毎日。人の心はお寺から離れ、道を歩く人影も見えず、行事も途絶えていました。つながりもお金もない。私たちにはお似合いの

存続が危ぶまれたお寺を 地域の人々のよりどころに

試練だったのかも
しません。このお寺を
地域のよりどころにしたいと考えてい
た矢先、上越市のお寺で「子ども食堂」
の話を聞きました。

私は子ども時代、親に頼れず、不安な日々を過ごしました。子どもが一人で行ける食堂って、なんてすてきなんだろう。うちのお寺には、僧侶の話を聞く広間があり、檀家さんとお供え物のコメが集まる。場所も人もコメもそろっている。やつてみようと動き出したところ、行政や学校の協力も得られ、幅広い年代から「手伝うよ」「定年退職したけれど、まだ動ける」「孫は離れて暮らしていく、子どもに何かしてあげたいと思っていた」と声をかけていただきました。大人の善意を受け止

「あいあう食堂」から 子どもの笑顔はみんなの笑顔

NPO法人あいあう 代表理事 平出 京子さん



大阪出身。
真宗大谷派大高山願生寺の坊守

める場も求められていたのです。



団体設立当初、願生寺で子ども食堂を開催

2019年にはフードシェアリング事業も始め、一人親世帯を中心に不定期でコメを配布しました。しかし、新型コロナウィルス禍で、利用者が失業などに追い込まれるのを目の当たりにすると、悠長にやっている場合ではない、毎月当てにできるものにしなければと焦りが募りました。当時は助成金を申請する力量もなく、手探り状態。フードバンクなどと協力し、なんとか配布回数を増やしました。

子どもも服を集め、境内で無料領布会も開催。ランドセルなどの学用品も寄付が集まり、リユース事業も立ち上げ

命綱としてコメを配る 学用品リユースも

2019年にはフードシェアリング事業も始め、一人親世帯を中心に不定期でコメを配布しました。しかし、新型コロナウィルス禍で、利用者が失業などに追い込まれるのを目の当たりに



中学校の制服や体操着、習字道具など学用品もリユース

40歳を過ぎてからの結婚だったこともあり、養子縁組で2人の息子を迎えた。自分自身も子育て真っ最中。お寺の仕事もあり、あいあうの事務を一人で抱えきれなくなっていました。20

ました。お下がりの傷や不具合は、スタッフがメンテナンスします。仕分けや管理のノウハウも蓄積されていきました。

多様性あふれる大所帯 ビジョンを共有



旧斐太南保育園に移転して子ども食堂を開催。妙高市内の子どもたちが集まつた

22年には旧斐太南保育園に拠点を移し、NPO法人を設立。業務を分担し、助成事業や委託事業も取り組めるようになりました。園内にレストランや管理のノウハウも蓄積されていきました。

あいあうの利用登録者数は毎月70世帯にまで増え、社会的責任も大きくなりました。ボランティアが70人いる大所帯で、多様性が魅力である一方、課題も多いです。専門家の指導を受けて改めて団体のビジョンを言語化し、運営の事務員も雇用しています。

NPO法人化で収益事業も持続可能な組織運営へ



レストラン「あい♡たす kitchen」。今年閉店した地元のカレー店「ふくふく」の味を引き継いでいる



食材や日用品配布の準備をするスタッフ。寄付でまかなえない場合は助成金で購入

當組織の基盤が整いつつあります。多くの方々の温かい支えがあつてここまでこられました。私はこの12月で代表交代しますが、子どもだけでなく、みんなが笑顔になれるこの場所を、後方から支えていきます。



赤い羽根 情報

歳末たすけあい運動にご協力を

ま 12月31日
で



NHK歳末たすけあいも
12月25日まで

「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに、歳末たすけあい運動が12月1日から31日まで行われています。期間中に寄せられた募金は、地域の高齢者世帯へのおせち配食サービスや、年末年始の家事援助、障害者施設でのクリスマス事業などに活用されます。また、NHK歳末たすけあい募金も12月1日から25日まで、県内の金融機関窓口などで受け付けています。こちらの募金は、こども食堂や難病患者支援団体

障害者支援施設に 送迎車プレゼント

県遊技業協同組合

新潟県遊技業協同組合からの寄付を原資にして、県共同募金会が福祉施設へ利用者の送迎用

車両を贈る「障害者支援施設車両助成交付式」が11月11日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで開かれました。写真は、贈呈車両はワンボックススタイルの乗用車です。

式では、県遊技業協組の朴

永雅理事長が「この助成も今年で14回目になりますが、贈呈した車両を地域で見かける機会が増え、地域の皆様のお役に立てるとうれしく思います」と

あいさつしました。

贈呈された社会福祉法人たい

よう福祉会（柏崎市）の新沢三和管理者と特定非営利活動法人

あいこうえん翼（燕市）の八子裕也理事は「材料搬入や納品に

欠かせず、運搬環境が充実し感謝しています」「助成いただい

た車のおかげで、乗り降りに苦



労していただけた利用者の利用回数が増え、うれしく思います」と、

お歳暮買付金つき商品

日本ハムマーケティング（株）様のご協力で、「日本ハムお歳暮ギフト」を購入すると売り上げの一部が募金となる「寄付金つき商品」を販売しています。ただけることになりました。

お歳暮買付金つき商品

日本ハムが寄付金つき商品

日本ハムマー

などへの助成に役立てられます。皆さまからのご協力をよろしくお願いします。

対象となるお歳暮ギフトを購入することで、お住まいの地域の福祉課題を解決するためのさまざまな福祉活動に協力・参加できる仕組みとなっています。

得意先や、ご家族ご親戚等のお歳暮をご検討の際はぜひとも一考いただきますようお願いします。カタログや申込書をご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。ご協力をよろしくお願いします。

申し込み締め切りは12月12日。問い合わせは新潟県共同募金会、025（281）5532。

福祉に尽力 これからも

魚沼市で第75回県民福祉大会

「共に生き共につくる福祉社会を目指して」をスローガンに、第75回新潟県民福祉大会が11月6日、魚沼市響きの森文化会館で開かれました。福祉の取り組みに功績のあった人たちが、全県から参加した約800人の前で表彰を受けました。

大会は県、県社会福祉協議会、県共同募金会と、開催地の魚沼市、魚沼市社会

福祉協議会の主催で開かれました。

会の冒頭、県社協の高井盛雄会長が「頻発化・激甚化する災害、少子高齢化の急速な進行など、地域福祉活動の拡充や強化はより一層大きな課題となっている。地域の多様なニ

ズを受け止め、制度や分野の垣根を越えた地域福祉活動の進展に引き続き取り組んで参りたい」とあいさつ。

これに続いて、花角英世県知事のあいさつを笠鳥公一副知事が代読。魚沼市の内田幹夫市長があいさつしました。

その後、表彰式が行われ、

「糖尿病を良くする・予防する10の美味しい食べ方」と題して、具体的な方法をアドバイスしました。

来年度の県民福祉大会は糸魚川市で開かれます。



県民福祉大会の冒頭であいさつする高井盛雄・県社協会長



県知事表彰者を代表して賞状を受ける新発田市の小林有子さん



県社協会長表彰者を代表して賞状を受ける魚沼市の久保康夫さん



県共募金会長表彰者を代表して賞状を受ける小千谷市の今井隆夫さん

県知事表彰に4人と5組、県社協会長表彰に178人と11団体、県共募金会長表彰に46人と9地区・団体、2校が選ばれ、代表が表彰状をを受けました。被表彰者を代表し、県知事表彰の里親部門で賞状を受けた小林有子さん（新発田市）が「皆様のご指導とご支援に心から感謝します。今日の表彰を機に被表彰者一同、地域福祉のさらなる発展のため福に一層の努力を重ねる所存です」と謝辞を述べました。

続く記念講演では、小竹向原内科・糖尿病内科クリニックの石井博尚院長がアデコ新潟支社は、地域に根ざした人材サービスを通じて、現場を支えています。「人手が足りない」「働きたいけど不安がある」——そんな声に、私たちは耳を傾け、最適なマッチングを実現。新潟で お仕事探すなら「Adecco」にご相談ください。



アデコ

<https://www.adecco.com/ja-jp>

Adecco



アデコ新潟支社は、地域に根ざした人材サービスを通じて、現場を支えています。
「人手が足りない」「働きたいけど不安がある」——そんな声に、私たちは耳を傾け、最適なマッチングを実現。

新潟で お仕事探すなら「Adecco」にご相談ください。

アデコ

<https://www.adecco.com/ja-jp>



お互いさまの気持ちでご近所に甘えることも大切、と力説する信友直子さん



おなじみのにぎやかな口調で、楽しく暮らすコツなどを披露する平野レミさん(右)

ゆとりと笑顔を忘れずに

福祉・介護・健康フェア 2025 in 新潟



〔上車〕いすに試し乗りする來場者
〔左〕長い列が途絶えなかつた農福連携
マルシェの卵つかみ取り



保育士などの「お仕事体験」に臨む子どもたち

ア2025 in 新潟」が11月8日、新潟市中央区の新潟市産業振興センターで開かれました。約3500人が来場し、講演や盛りだくさんの体験イベントなどを通して、福祉や健康づくりについて考えました。

主催は新潟日報社、新潟市

か来場し、講演や盛りたぐさんの体験イベントなどをを通じて、福祉や健康づくりについて考えました。

月8日、新潟市中央区の新潟市産業振興センターで開かれました。約3500人

「福祉・介護・健康フ工

社會福祉協議會。



調しました。

る父親のエピソードを紹介し、「認知症の本人に笑顔を向けることが大切。プロに任せたりご近所に甘えたりして、家族は心の余裕を保つようにしてほしい」と強

かけ、最後に「バラ色の
生」を熱唱しました。

像をユーモアたっぷりに紹介。「今この一瞬、この一食

「いします」を監督した信
友直子さんがプレミアム
トークを行いました。

メインステージでは、料理愛好家でシャンソン歌手の平野レミさんと、映画「ぼけますから、よろしくお願ひしまー。」の監督・脚本家



認知症治療の現状などを解説する池内健・新潟大学脳研究所教授



歯を磨く習慣の大切さなどを学んだ「健康立県にいがたトークショー」



日頃磨いた実技を競った県介護技術コンテスト

福祉の取り組みに役立てて

県生保協が寄付

生命保険協会新潟県協会（会長＝阿部美佐子・住友生命新潟支社長）は11月10日、県内で活動するボランティアグループの備品購入費や物品など計260万円余りを寄付しました。



贈呈式の後で記念撮影する生保協同
協会役員や寄付を受けた団体代表ら

新潟市中央区の新潟グランドホテルで贈呈式が行われ、県生保協の阿部会長が各団体の代表者に目録を渡し、県社会福祉協議会の高井盛雄会長が阿部会長に感謝状を贈りました。

た。このほか県上越地域振興局直江津港湾事務所（上越市）にAED、県立障がい者支援施設コロニーにいた白岩の里（長岡市）に車いすを贈るなどしました。

る県内21社の職員約5千人を対象に募金を募り、これを原資として県内各地の福祉の取り組みに寄付を行つ

同協会では毎年、加盟す

付金額は、269万7628円となりました。



聖籠町社協に贈られる福祉巡回車と、関係者たち

福祉の店 パレット情報

編集後記

2025年 12月							2026年 1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31

営業時間 11:30～16:30  …は休業日

佐渡の無名異焼のマグカップを愛用しています。台に残し、器全体は濃緑のグラデーション。そのたまりは佐渡の美しい海を連想させます。前の職場を退職する時にチームの同僚から餞別として贈られました。これまで家に置いていましたが、温かいものが恋しい季節になつたので、職場に持ち込みました。今もそれでコーヒーを飲みながらこの原稿を書いています。

「いいの作ろうと思つているうちは、いいのとはできん。そこには汚れた気持ちが入つとる。大事なのは裸の気持ちになることだつちや」マグカップを眺めていると、こんな言葉を思い出します。

頃佐渡で勤務していた若い頃、公私共にお世話になつた金工家、三代目宮田藍堂さん（1926-2007）の口癖でした。マグカップと藍堂さんは直接関係はないのですが、筆者の中では佐渡という糸で両者がつながつています。

「答えるなんかすぐには出面白いだろ？」。自身の創作出について藍堂さんはこんなこもよく話していました。

来年は藍堂さんの生誕100年です。周囲を見れば答える出ない問題ばかり。いろいろな場面で予断や偏見を捨て、真っすぐ向き合わねばと、泉下の藍堂さんと一緒に気合を入れられます。

「福祉にいがた」へ ご意見ご感想、情報を寄せください

◆T E L 025 (281) 5613
◆F A X 025 (281) 5528
◆Eメール kikaku@fukushiniigata.or.jp

◆新潟県社会福祉協議会企画広報課
〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2
新潟ユニゾンプラザ3階

お待ちして
います

福祉にいがた

オアシス21

発行・編集 社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
制作 朝津印刷株式会社

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2-2 (新潟ユニゾンプラザ)
〒957-0000 新発田市富塚1419 TEL.0254 (27)2101

ISSN 2188-9538